

## 八田進二教授退職記念号の発刊に際して

青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科の八田進二教授は、1949年（昭和24年）のお生まれで、2017年8月3日に満68歳をお迎えになり、本学の規程により2018年3月31日をもって定年退職されることとなりました。

八田教授は、1973年3月に慶應義塾大学経済学部をご卒業後、1976年3月に早稲田大学大学院商学研究科の修士課程を修了し、そして1982年3月に慶應義塾大学大学院商学研究科を単位取得満期退学なされました。この間に、公認会計士試験の2次試験に合格なされて会計および監査実務の経験を積んでおられます。

富山女子短期大学（現：富山短期大学）と駿河台大学を経て、青山学院大学へは、経営学部教授として2001年に就任し、2005年4月の大学院会計プロフェッション研究科（GSPA）発足と同時に移籍されました。GSPAの創設にたいへんなご尽力をなされ、八田教授の陣頭指揮がなければ、創設までこぎつけられなかったと言っても決して過言ではありません。第4代研究科長（2011年4月～2013年3月）を務めるなど、創設から今日までGSPAの持続的発展のために獅子奮迅のご活躍をなされてこられました。その一例としては、八田教授が発案の主要国首脳会議（サミット）になぞらえた会計サミットが挙げられます。GSPAから外部への情報発信の場として毎年7月に旬なトピックを取り上げて開催されており、八田教授の豊富な人脈のお陰で、時の人として脚光を浴びている著名人をお呼びすることができるため、多い時には400名を超える参加者を得て活況を呈しています。会計サミットのシンポジウムでは、殆どでコーディネーターを務めておられ、八田教授の絶妙な進行役は会計サミットの名物となっています。

八田教授の研究者としてのご関心は、本号末尾の「業績一覧」から、会計・監査・ガバナンスの領域で多岐にわたっておられますが、とくに、職業倫理、コーポレート・ガバナンス、内部統制に集約できることが分かります。職業倫理においては、日本では誰よりも早く研究に着手し、今日の会計プロフェッション教育には欠かせない科目となっています。高潔な八田教授だからこそ、会計領域では取り扱うことが難しい職業倫理研究の重要性を誰よりも早く見抜けたのでないでしょうか。コーポレート・ガバナンスに関しては、国際的にみて重要な文献の翻訳を通していち早く日本に紹介し、そして内部統制に関しては、金融庁企業会計審議会委員（内部統制部会長）として、内部統制報告制度の確立にご尽力なされました。また、日本監査研究学会会長や日本内部統制研究学会会長など多数の学会の要職もお務めなされました。

八田教授は、世界会計士会議（World Congress of Accountants）と世界会計教育研究学会（International Association for Accounting Education & Research）という2つの国際会議に、前者

が東京で、そして後者が京都で1987年に開催されたことを契機に、世界各国で開催されている両方の国際会議に、その後、毎回の出席を続けてこられています。それは、GSPAでの教育と研究に必要なグローバルな感性と知見を吸収しようとしていたからではないかと推察する次第です。

GSPAでは、八田教授は、「職業倫理」、「監査制度」、「会計事例研究」などの講義科目に加えて、「演習Ⅰ～Ⅳ」と「研究指導Ⅰ～Ⅳ」をご担当なされ、会計プロフェッションの育成に努めてこられました。加えて、博士後期課程のプロフェッショナル会計学専攻においても研究指導を行ってこられました。その一方で、八田教授は、上梓された『会計プロフェッションと監査－会計・監査・ガバナンスの視点から－』（同文館出版〔2009年〕）をもって、最初の論文博士号授与者（博士（プロフェッショナル会計学））となりました。

八田教授のお人柄を一番に現わしているのは、指導教授、研究仲間、指導学生に留まらず、多分野の方々との出会いを大切にされてきたところにあります。そこには、社外監査役等を通じての出会いがあり、また、学生時代からのご趣味のマジックについては、後進の指導ばかりではなく、現在では、日本最初のアマチュアのマジシャンズ・クラブの監事を精力的に務め、ステージにも立たれておられます。

私事ながら、30年以上の公私にわたるお付き合いを通じて、耳障りの悪い言葉をかけ続けて頂いた八田教授が、4月からは声の届く距離に居なくなることが、八田教授の優しさが一段と感じとれるようになった今、尚更に寂しく思えます。それは、本研究科の教職員、そして学生も同様です。八田教授には、まだまだ担って頂きたい役割が残っていましたが、たいへん残念ながら、大学の規程により、それは叶いません。われわれ教職員は、八田教授の名を汚すことなく、一致団結して、GSPAならびに会計プロフェッションの持続的発展に努めていくことをお誓い申し上げなければなりません。八田教授からのサステナビリティを導くご指導、すなわちサステナビリティの定義の原点ともいえる「将来世代のニーズを満たす能力を損なうことなく現代のニーズを満たす発展（Our Common Future）」を導くご指導に報いるためにも、当然の責務と心得ております。

最後に、八田教授と親しく研究をされてきておられる研究者の方々の玉稿とともに、われわれ同僚による研究成果の掲載された『会計プロフェッション』第13号を「八田進二教授退職記念号」として発刊することで、われわれ全員による八田進二教授へのお礼と感謝の気持ちに代えさせて頂きたく存じます。

2018年3月

青山学院大学大学院 会計プロフェッション研究科長  
会計プロフェッション研究学会長

小 西 範 幸